

環境基本計画プレ評価・意見（9年分）まとめ

1 ヒトにやさしく、快適な環境で安心して暮らせるまち

1-1 公害のない安心・安全な暮らしの確保

- 1-1-1 事業活動等から生じる典型 7 公害に係る環境基準及び関連規制を満たします。
- 1-1-2 ため池の水質改善を図ります。
- 1-1-3 河川・海域の水質改善を図ります。
- 1-1-4 地場産業である畜産業の発展のため、ふん尿処理に起因する臭気について、対策を図ります。

1-2 快適な市民生活環境の確保

- 1-2-1 交通流円滑化・交通量低減対策を図り、交通渋滞を解消します。
- 1-2-2 住環境の向上を図るため、市街地を整備します。
- 1-2-3 生活に起因する環境問題について、適切な対策を図ります。

評 価	AA - 0		良好です		改善・見直しの必要がありません
	A -10	AA		B	
	B - 1		概ね良好です		改善・見直しを行い一層の努力が必要です
	C - 1	A		C	

【評価できる点】

1-1 全体に関すること

- ・大気汚染、河川の水質などの典型 7 公害と公共下水道普及率などが着実に改善されたことは評価される。

1-1-1

- ・大気汚染に係る環境基準の達成率が 100%に保たれている点。
- ・大気汚染に係る環境基準値をほぼ満たしていること。
- ・大気汚染に係る環境基準値は達成されており評価できる。

1-1-2

1-1-3

- ・水質改善が認められる川が 2 つある。
- ・目標達成しているものは維持ができており、目標未達のものでも一部の河川を除いて、年々改善されていること。この改善が、毎年の様々な取り組みの継続により、なされていること。
- ・一部の河川を除き BOD が改善方向にあり評価できる。
- ・現状の環境基準を把握するためにも川の水質（BOD）の定期的な測定を継続していることは評価できる。
- ・下水道の普及率も向上している。

- ・公共下水道の整備率が順調に上がっている点。
- ・公共下水道の普及・整備については、概ね目標を達成できていること。
- ・公共下水道整備率及び人口普及率はともに計画を達成し評価できる。

1-1-4

- ・臭気に対して、さまざまな取り組みができている点。
- ・臭気対策が進められている点は評価できる。
- ・畜産臭気の低減対策として、大学との共同研究、バイオガス発電施設建設の検討等、様々な主体と連携して推進していることは評価できる。

1-2-1

1-2-2

1-2-3

【今後の課題及び期待したい点】

1-1 全体に関すること

- ・大気汚染の各指標や河川のBODは、他の活動項目に比べ、各指標の目標値の意味するところが市民にはピンとこない。どのような環境影響を及ぼすのかを評価結果とともに説明したり教育したりしていくことが、より一層の市民の理解と協力には必要に思う。目標未達のものについては推定原因と改善への取組内容を具体的に開示することが大切。

1-1-1

- ・大気汚染に係る環境基準値には他の指標も必要と考える。
- ・衣浦湾には石炭火力が2か所あり、また大気汚染は広域化するため、発生源対策が重要。常に企業と市民の緊張感を持った関係が大切と考えます。

1-1-2

1-1-3

- ・矢勝川は親水性という点で活用が見込まれる川である。その川の汚れの原因を早くつかみ、水質改善をしてほしい。
- ・矢勝川の環境基準達成度合いについては、他の河川とは別に、何らかの対策が必要ではないでしょうか。
- ・矢勝川のBODについては早急な改善対応が必要。
- ・矢勝川の水質が改善される兆しが見えないため、抜本的な対策を検討するべきと考える。
- ・矢勝川は早期対策計画を作るべき。
- ・一部の河川（矢勝川等）について、市民に対して生活排水対策の一層の啓発を行うなどにより、水質が改善することを期待する。
- ・阿久比川は他の川と条件が違う（潮の影響を受けやすい）ので、BODの表記に工夫が必要である。

- ・阿久比川の潮流等の影響について、抜本対策はあるのでしょうか。
- ・河川的环境はBODだけではなく他の数値も参考に評価できると良い。
- ・河川的环境数値はインフラ整備（公共下水道の接続や合併浄化槽の切替）で左右されるとの報告ですが、BODの基準以外に生物生息の種類などを盛り込む必要を感じます。数値評価のみでは市民への動機付けが弱い。

1-1-4

- ・住宅地における臭気問題。
- ・畜産業等が出る臭いについては継続的な改善対応が必要。
- ・臭気低減対策を一層推進して、市街地において悪臭が低減されることを期待する。
- ・地場産業である「知多牛」の食材としての評価は大きく向上した。その反面、臭気公害の改善は乏しいので、今後、更に、力を入れて改善することが望まれる。
- ・畜産ふん尿について大学との共同研究に今後も期待したい。
- ・バイオマス発電等のバイオマス処理による家畜糞尿の悪臭対策に期待。
- ・畜産関係から出る臭気対策は、継続的な大学とのタイアップと、今後のバイオマス発電施設の稼働により改善を図ってほしい。
- ・バイオマス利用が、どのように進んでいるのか市民に分かり易い方法で公開できると良い。

1-2-1

1-2-2

1-2-3

2 地球環境を守り、持続可能な社会を目指すまち

2-1 温室効果ガス排出量の削減

- 2-1-1 市内の温室効果ガス排出量を把握し、地球温暖化対策を各分野ごとに効果的に推進します。
- 2-1-2 産業・業務部門での対策を推進します。
- 2-1-3 運輸部門での対策を推進します。
- 2-1-4 家庭部門での対策を推進します。
- 2-1-5 市（行政）において率先して行動します。

2-2 資源循環型社会の構築

- 2-2-1 ごみを出さない（発生抑制）ライフスタイルや事業活動を促進します。
- 2-2-2 リユース（再使用）・リサイクル（再生利用）を推進します。
- 2-2-3 廃棄物の適正処理を推進します。

2-3 環境に配慮した事業活動を推進します。

- 2-3-1 環境マネジメントシステムの導入促進を図ります。
- 2-3-2 事業者による周辺住民との自主的なリスクコミュニケーションを促進します。
- 2-3-3 中小企業等の環境に配慮した事業活動を推進します。

評価	AA - 0 A - 7 B - 5 C - 0	 AA	良好です	 B	改善・見直しの必要があります
		 A	概ね良好です	 C	改善・見直しを行い一層の努力が必要です

【評価できる点】

柱2全体に関すること

- ・リサイクル率以外については、目標未達のものも含めて、概ね、年々改善傾向にあります。多岐に渡る市民参加型の活動も含めた地道な活動の成果と思われます。

2-1-1

- ・家庭部門CO₂の年間排出量は下がっており、いい傾向である。
- ・家庭部門CO₂の年間排出量は数値的に目標をクリアしており評価できる。
- ・家庭部門CO₂の年間排出量が目標値を十分にクリアしている点。
- ・H23から家庭部門のCO₂排出量が集計されたことは、1歩前進である。

2-1-2

- ・バイオマスの利用が事業者と連携して進められている点 2-2-2
- ・木質バイオマス発電施設が建設されたことは、発電生産が多角的に行われ、リスクの分散・安定供給につながるとして、評価できる。 2-2-2

2-1-3

- ・「ごんくるバス」の運行を開始した事は評価できる。

2-1-4

2-1-5

- ・太陽光発電システムの導入件数が増加しており、いい傾向である。
- ・住宅用太陽光発電システムの導入件数増加は評価できる。
- ・環境配慮型住宅用設備の導入状況が、目標を大幅に上回っていることは評価できる。

2-2-1

- ・ごみの排出量も9年間で見るとよく抑えられている。
- ・総ゴミ量が対平成20年比△13.4%は評価できる。
(平成20年：1,073g/人・日、平成29年：929g/人・日)
- ・市民1人1日当たりのごみ排出量は、環境行政の根幹となるバロメーターであり、それが着実に改善されつつある。
- ・生活系のごみは経年では減少している。

2-2-2

- ・もったいないバザールの開催は評価できる。

2-2-3

2-3-1

2-3-2

2-3-3

【今後の課題及び期待したい点】

2-1 全体に関すること

- ・エコ事業所、エコファミリーの登録が失速している。今後、組織的かつ継続的な環境保全活動を行っていく上で、不可欠なので、再構築する必要がある。

2-2 全体に関すること

- ・生活ごみ排出量の減量がなかなかすすまない点と、リサイクル率が上がらない点については、今後、市民に環境学習を丁寧にしていただき、市民一人ひとりができる行動を具体的に周知してもらいたい。
- ・市民1人1日あたりのごみ排出量とリサイクル率については、目標を達成できていない。今後、広域化に伴う制度変更のタイミングで積極的なごみ減量施策が実施されることを期待します。
- ・生活系ごみの排出減が進んでいないこと、リサイクル率の後退は残念。生ごみの堆肥化促進は大いに効果的と考える。
- ・生活系ごみの一日一人当たりの排出量の削減が鈍化している点及びリサイクル率が悪化している点については、家庭系ごみの有料化の導入、市民に対する一層の啓発等により改善することを期待する。

2-1-1

- ・ 今後は、パリ協定等の温暖化対策として家庭部門のＣＯ２削減も必要であり、今以上の啓蒙活動が必要。
- ・ クリーンセンター移転に伴い、新クリーンセンターでは徹底した温暖化防止対策が必要。
- ・ 新市民病院の設計構想へは温暖化防止対策の入れ込みが必要。
- ・ H 2 3 から家庭部門のＣＯ２排出量が集計されたことは、１歩前進である。その構成、問題点がその中から摘出される事が望まれる。
- ・ 地球環境の保全は、半田市の全ての活動をＣＯ２換算値で捉え、それによる①改善の効果②今後の改善の重点対象を決めるべきである。その取り組みが遅いので、今後、本格的に取り組む必要がある。
- ・ ＣＯ２の排出量は重要な環境要素であるので家庭部門のＣＯ２排出量算出の根拠が納得できるモノにしたい。

2-1-2

2-1-3

- ・ 「ごんくるバス」の地道な利用率向上活動が早期に必要。今のままならＣＯ２の排出増加になる。

2-1-4

- ・ 電力自由化や太陽光エネルギーの買い取り価格の変更など、今までと異なるエネルギー環境の中で、環境にやさしく、かつ、費用的にもメリットのある組み合わせを平均的な世帯のモデルケースとして作成し、明示してあげると一層モチベーションアップにつながるのではないかと思う。目標値の意味するところ（たとえばゴミ排出量が目標達成できるとゴミ処理場の増設を先送りできて、税金上もメリットがあるとか etc.）も明示できると「やる気」につながるのではないかと思う。

2-1-5

2-2-1

- ・ 生ごみを焼却処分するのではなく、再リサイクル化し活用する研究を行ってほしい。
- ・ 広域ごみ処理施設が稼働すると、半田市のごみ組成調査はできるのか。各家庭に引き続き調査結果を公開し、更なるごみの減少、分別及び再利用を提案すべきである。

2-2-2

- ・ リサイクル率が下がっている。リサイクルの意識を高めていきたい。
- ・ リサイクルには不要品の再利用でもあるフリーマーケットも含めていいのではないかと思う。リサイクル活動として半田市主催のフリーマーケットを推進してもいいのではないか。
- ・ 自然再生エネルギーを市民が身近に感じられる制度づくりを進めてほしい。エネルギーの共同管理、利用をとおして、環境にやさしい地域作りができる。

2-2-3

2-3-1

2-3-2

2-3-3

- ・ 温室効果ガス排出量削減の必要性を身近に感じにくいので、環境講演会（２０１７年に行ったような）を開催し市民に身近に感じてもらうと良い。
- ・ ゴミを減らす方法や色々なリサイクル方法等を親子で学べる講習会をやると良い。

3 豊かな自然を守り、自然と共生するまち

3-1 うるおいのある緑・水空間の整備

3-1-1 緑や水と親しみ、身近に感じられる場を保全・創造します。

3-2 生物多様性の保全

3-2-1 生態系ネットワークに配慮した自然環境保全及び整備を推進します。

3-2-2 特定外来生物についての対策を図ります。

3-3 環境面からの農業振興

3-3-1 環境保全機能を持つ農地を保全します。

3-3-2 緑地確保のため農地の活用を図ります。

3-3-3 地産地消を推進します。

評価	AA - 0		良好です		改善・見直しの必要があります
	A - 10	AA		B	
	B - 2		概ね良好です		改善・見直しを行い一層の努力が必要です
	C - 0	A		C	

【評価できる点】

3-1-1

- ・公園の整備など計画的に出来ている。
- ・公園整備により多くの人を楽しんでいる。
- ・公園が整備されている点は評価できる。
- ・1人あたりの公園・緑地面積が増えるとともに、整備も進み、自然に触れあい楽しめる公園や河川が多くできてきたことは評価できる。
- ・公園の整備などにより1人あたりの公園・緑地面積（㎡／人）が目標を達成していること。
- ・1人あたりの公園・緑地面積が目標を達成できています。
- ・公園・緑地が整備され、1人あたりの面積が増えている点は評価できる。
- ・1人当たりの公園面積はH20年から目標値を達成している。
- ・1人当たりの公園・緑地面積が目標を大きく上回っていることは評価できる。
- ・河川において親水性を考慮した整備がよくされている点は評価できる。

3-2-1

- ・自然観察会の開催が定期的に行われている。
- ・「はんだ水辺マップ」を作成し川や池の生きものを写真で表示したことは評価できる。

3-2-2

3-3-1

3-3-2

3-3-3

- ・学校給食への地元農作物の使用、児童体験農業等の事業は評価できる。

【今後の課題及び期待したい点】

3-1-1

- ・緑地面積のみの指標で、市民が「緑が多い」との認識につながっているのか確認すべき。公園だけに緑があっても生活しているエリアに緑がないと実感ができないのではないかな。
- ・市民が自然と親しめるような公園・緑地づくりを期待します。(面積だけでなく、質の部分)
- ・1人当りの公園・緑地面積は、他の市町村と比較してもまだ少なく、その中身も物足りない。
- ・公園整備については、手つかずの自然を残す「任坊山公園」の取り組みは先進的であり、今後は、一定規模以上の公園に取り入れてほしい。
- ・公園、緑地面積指標からはハード面しか見えない。既存公園の利用評価(木陰、水辺、運動)面積、トイレ、遊具)などにも取り組むべきである。
- ・公園利用者の満足度、要求内容の把握がされていない。

3-2-1

- ・生態系ネットワークについてもっと市民に周知していく必要がある。
- ・市内の野山の草花や昆虫のリーフレットも作成したい。(半島内の幾つかの他市町に例がある)

3-2-2

- ・外来種対策に関する各種施策の推進を期待する。

3-3-1

3-3-2

- ・耕作放棄地を減らす施策。
- ・耕作放棄地の面積が増え続けている点については、他の自治体の成功事例を参考にしたり、市民へのアンケートなどでアイデアを募ったり、企業との連携を図ったりするなどして改善していくことを期待する。
- ・耕作放棄地は、中小企業の後継者がいなくて廃業する会社と、同じである。IT化による農業起業希望者が若者中心に増えている昨今でもあり、土地所有者とのマッチングと起業ノウハウの教育を図っていけばいい循環が生まれるのではないかな。
- ・耕作放棄地について農業を行いたい人に紹介する等のシステム整備が必要。
- ・高齢化社会の到来で、耕作放棄地が増えたことも予想され、有効活用の対策検討を期待する。
- ・耕作放棄地の有効活用に期待したい。
- ・耕作放棄地面積は、拡大傾向にあり、議論ではなく、具体的対策を提案すべき。例えば、耕作放棄地の市民農園化(水、トイレ、交流広場・バーベキュー設備)など、全世代が楽しめる農業型公園を中学校区単位で配置する。
- ・地元農家と市民が交流できる場を提供し農業、農地活用を議論する機会を増やす。

3-3-3

- ・地元農産物の販売する場の整備(道の駅等)
- ・学校給食への地元農作物の使用、児童体験農業等の事業について、JAと連携するなど一層の推進を期待する。

4 美しいふるさとと、歴史や文化を大切にするまち

4-1 美しく半田らしい景観の整備

4-1-1 美しいまち並みを保全・創造します。

4-2 歴史的・文化的環境資源の保全と継承

4-2-1 地域の歴史的・文化的資源を保全・継承するとともに、環境に配慮した観光資源の整備を推進します。

4-3 ゆとりややすらぎ、活気のある空間の整備

4-3-1 公園や広場等の市民が憩う場の整備を推進します。

4-3-2 環境に配慮した中心市街地の整備を推進します。

評価	AA - 0		良好です		改善・見直しの必要がありません
	A -11	AA		B	
	B - 1		概ね良好です		改善・見直しを行い一層の努力が必要です
	C - 0	A		C	

【評価できる点】

柱4全体に関すること

- ・半田運河周辺、赤レンガ建物、七本木池及び雁宿公園が整備され、市民がふれあう憩いの場が増えたことは大いに評価できる。
- ・街並み、山車、建物などその地域の特色を打ちだし、宣伝効果は毎年着実に発展している。

4-1-1

- ・景観整備が進み、イベント開催についても環境に配慮した運営がなされている。また、魅力あるまちづくりについて、SNSを活用した取り組みがなされ、幅広い世代に伝わったことは評価できる。
- ・半田運河周辺の景観整備、イベント開催は評価できる。

4-2-1

- ・赤レンガ建物や矢勝川の彼岸花整備などは頑張っていると感じる。
- ・運河、赤レンガ、半田祭り、新美南吉館など個々の観光名所はとても素晴らしい整備がなされていて、ふるさとを誇れる意識にもつながるものであると思う。
- ・地域の歴史的・文化的な資源
- ・半田市の景観が保護され、活用されている（赤レンガ、半田運河、南吉記念館周辺）
- ・地域の歴史的遺産が整備され、市民に分かりやすく、また、観光資源としても充実してきたことは評価できる。
- ・南吉記念館や運河の周辺、赤レンガ建物付近は良く整備されてきて、観光資源としての価値も高まっている。関係者の貢献は大いに評価できる。
- ・運河周辺の景観整備、はんだ山車まつり、新見南吉関連事業等、歴史的・文化的資源が保全・継承されていることは評価できる。
- ・歴史・文化の地付近を通る「ごんくる」コミュニティーバスの試行は評価できる。

4-3-1

4-3-2

【今後の課題及び期待したい点】

4-1-1

- ・歴史ある建造物や、それに伴う文化について、市民や観光客を含め、様々な方の意見を取り入れた景観形成を進めていただきたい。
- ・点としてはとても整備されているが、線や面として整備されないと本当に調和がとれた街とは言えないのではないか。その点について、街並みとして統制がない気がする。観光者が半田市を歩き回って観光したくなるような線で結ばれた文化的な街並みが、整備できるといい。
- ・海は亀崎の海岸だけになってしまったが、川は四つの川全てに、子どもの心に残る「ふるさとの川」づくりへ改良していく余地が十分ある。そんな川づくりを期待したい。

4-2-1

- ・半田市には、多くの歴史と遺産があるが、その説明、プレゼンが他の市町村と比較すると劣る。ミツカンミュージアムの好例に習い、半田市博物館の展示方法などの工夫をすることが必要である。
- ・地域の文化遺産として、残された巨樹を大切にすることが有る。その保存と意義づけのために番付表などを作り、分かりやすくすることが考えられる。
- ・新たな観光資源の掘り起こしや、PR方法の改良などを行うことにより、一層の魅力づくりが図られることを期待する。
- ・半田を訪れる人に「ごんくるバス」に乗ってもらう工夫が必要。

4-3-1

- ・高齢者、子育て世代、障がい者などあらゆる人々に適した整備（移動、休憩、トイレ等）の再点検を図るため、市民アンケートに取り組むべきだ。

4-3-2

- ・盆踊り会場となるJR半田駅周辺がより快適な空間になるよう整備することを希望する。

5 みんなで環境を守り育てるまち

5-1 環境学習の推進

- 5-1-1 あらゆる世代への環境学習を支援します。
- 5-1-2 地域と学校が連携した環境学習を推進します。
- 5-1-3 環境学習指導者や地域での環境活動の担い手となる指導者を養成します。

5-2 市民・事業者・行政による良好なパートナーシップの形成

- 5-2-1 地域・事業者・行政など各主体間の連携を図ります。
- 5-2-2 各主体間における環境情報の共有及び活性化を図ります。
- 5-2-3 環境NPOや環境保全団体等の育成及び活動を支援します。

評価	AA - 0		良好です		改善・見直しの必要がありません
	A - 9	AA		B	
	B - 3		概ね良好です		改善・見直しを行い一層の努力が必要です
	C - 0	A		C	

【評価できる点】

柱5全体に関すること

- ・アダプトプログラム団体を除いて、目標値を上回っている。
- ・アダプトプログラム団体を除いて、継続的な活動により目標を達成している。
- ・環境学習イベントの参加人数及びアダプトプログラムの登録者数が目標を上回っているのは、評価できる。
- ・環境イベントの参加数、アダルトプログラムの登録数は毎年目標数値を上回っており、評価したい。
- ・環境学習イベントの参加人数、アダプトプログラムの登録者数が、目標を達成している点は評価できる。

5-1-1

- ・環境学習イベントの参加人数は目標を達成できています。
- ・環境学習イベントが開催されている点は評価できる。
- ・学校への環境学習出前講座は評価できる。
- ・世代別の各種学習会も多彩に取り組まれている。
- ・自然の中で様々な体験が出来る自然観察会の実施は評価できる。

5-1-2

- ・教育機関での環境学習出前講座は効果が高い。保育園へも拡大したことは評価できる。

5-1-3

5-2-1

- ・企業と連携して環境教育事業を推進している点は評価できる。

5-2-2

5-2-3

- ・ 毎年の水辺クリーンアップ大作戦は、市民協働で取り組み、一大イベントとして定着しているため、評価できる。4-3-1
- ・ アダプトプログラム登録者数は目標値をクリアできており、市民協働が機能している点は評価できる。

【今後の課題及び期待したい点】

柱5全体に関すること

- ・ 教育への参加者やプログラムへの登録者が減っている要因を明らかにして、教育内容や対象者や教育方法を見直していくことが必要。

5-1-1

- ・ 環境学習に参加する人数を増やしていきたい。
- ・ 環境学習活動を子ども、大人、外国人など、全ての市民に向けて、また企業の協力も受けて、推進していただきたい。
- ・ 他市町・外国から入ってきた若い人への啓発活動。
- ・ 子供への環境教育は充実していると思われるが、大人への環境教育も必要。(地球温暖化、外来生物など)
- ・ 一般市民向けに、市バスを使った環境学習ツアー等環境に対する意識を高めてもらえる事業を増やしてほしい。
- ・ 大人を対象とした環境学習講座が必要。環境学習講座を企業と連携して開催できると良い。

5-2-1

- ・ 世代別学習項目と参加数を公表してほしい。
- ・ 生活系ごみ、プラごみ対策に特化した環境講座を入れてほしい。
- ・ 未就学児童に対する環境学習をより充実させることを期待する。
- ・ シニア世代又は大学生の方を活動に取り込むなど、交流の場が広がるような施策を期待する。

5-1-2

- ・ 武豊町に建設される知多南部広域環境組合の焼却施設における環境学習の積極的な展開を期待します。
- ・ 教育現場における環境学習への積極的な支援や、出前講座の企画を今後も継続してほしい。
- ・ 「環境」の範囲は膨大で各課に係る。環境課は各課を注視するとともに地域や学校等とのコーディネートに今後も頑張ってもらいたい。

5-1-3

5-2-1

- ・ 生活系ごみ、プラごみについては、製造業者など企業責任者と交流する機会を設定することが重要です。

5-2-2

5-2-3

- ・環境保全団体の多くは、高齢化が進み継続性が危ぶまれる。若い世代の参加が必要である。
- ・アダプトプログラムは、登録団体数や登録者数が減っても、登録エリアが広がればいいと思います。
- ・アダプトプログラムは環境の専門用語であり、分りづらい。その意義と具体的な実践法を分かりやすく説明し、着実に展開する事が必要である。